

令和5年中

鈴鹿市内の交通事故状況

発行日 令和6年4月
発行者 鈴鹿市危機管理部
交通防犯課

交通事故の発生状況

※件数は届出により変動する場合があります

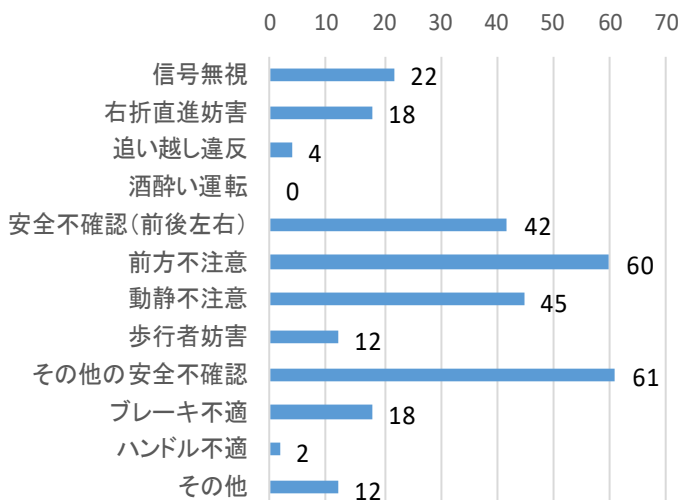
	令和5年	令和4年	増減数	増減率
交通事故件数	5,793件	5,591件	+202件	+3.6%
死者数	6人	9人	-3人	-33.3%
高齢者死者数	3人	5人	-2人	-40.0%
高齢者構成率 %	50%	55.6%	-5.6ポイント	
人身事故件数	296件	278件	+18件	+6.5%
高齢者人身事故件数	93件	66件	+27件	+40.9%
高齢者構成率 %	31.4%	23.7%	+7.7ポイント	
重傷者数	60人	48人	+12人	+25.0%

死亡事故の状況

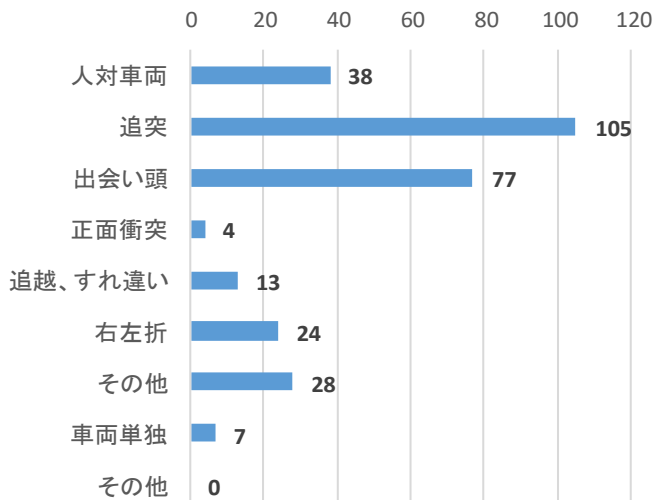
発生日	発生時間	発生場所	死者の年齢	事故時の状態	形態
7月2日(日)	5時00分頃	御園町	29歳	自動車運転中	自動車対自動車
7月26日(水)	16時15分頃	東旭が丘二丁目	82歳	道路横断中	自動車対歩行者
7月28日(金)	23時40分頃	北玉垣町	18歳	二輪車運転中	二輪車単独
8月14日(月)	21時25分頃	岸岡町	91歳	道路横断中	自動車対歩行者
10月28日(土)	8時50分頃	十宮一丁目	86歳	原付運転中	自動車対原付
12月19日(火)	5時40分頃	南玉垣町	56歳	自動車運転中	自動車対自動車

人身事故の発生原因

令和5年中に発生した事故の主な原因

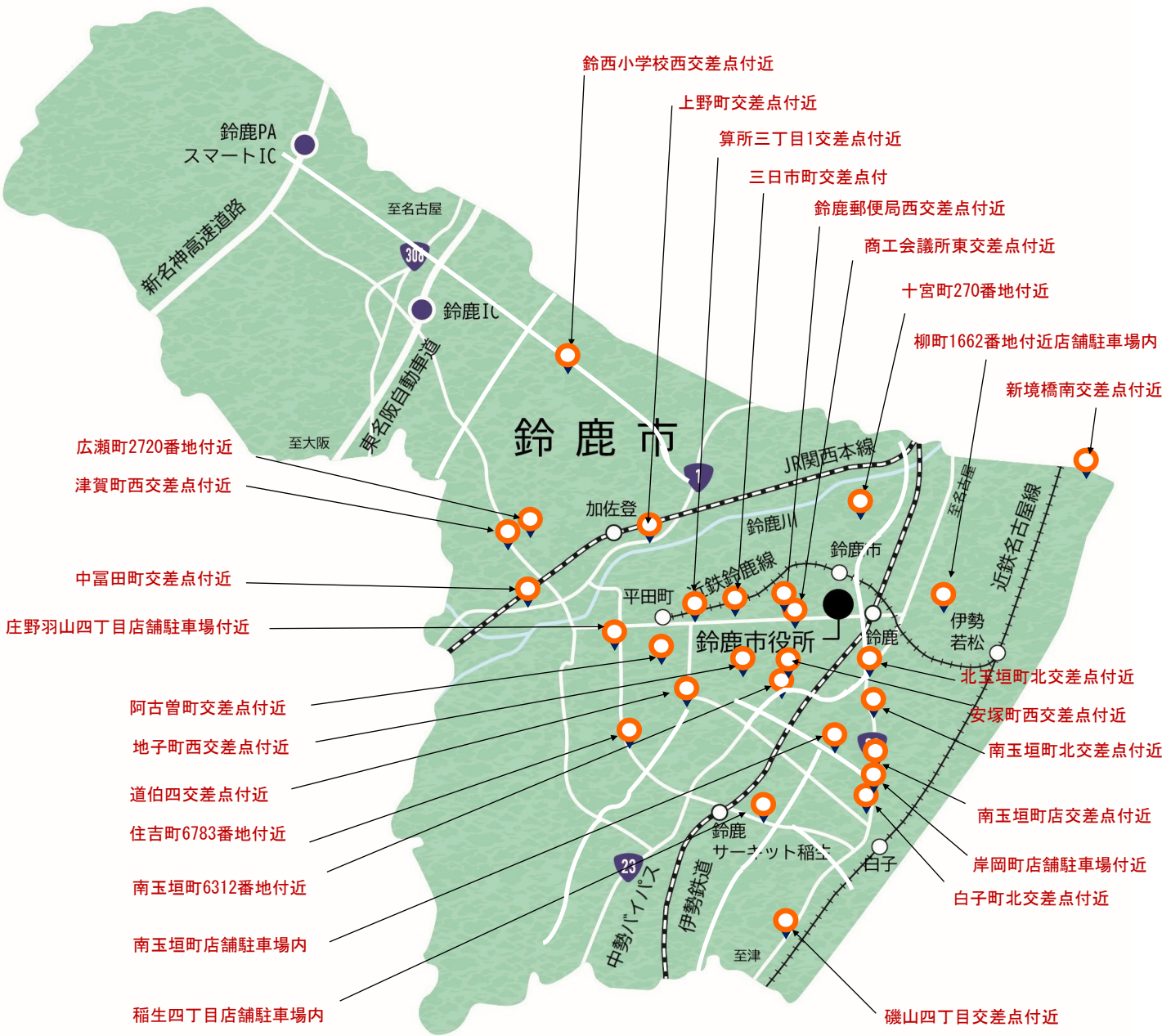


令和5年中に発生した事故の類型別内訳



人身事故発生マップ

(令和5年中複数件人身事故が発生した箇所)



地区別 交通事故死傷者数の状況

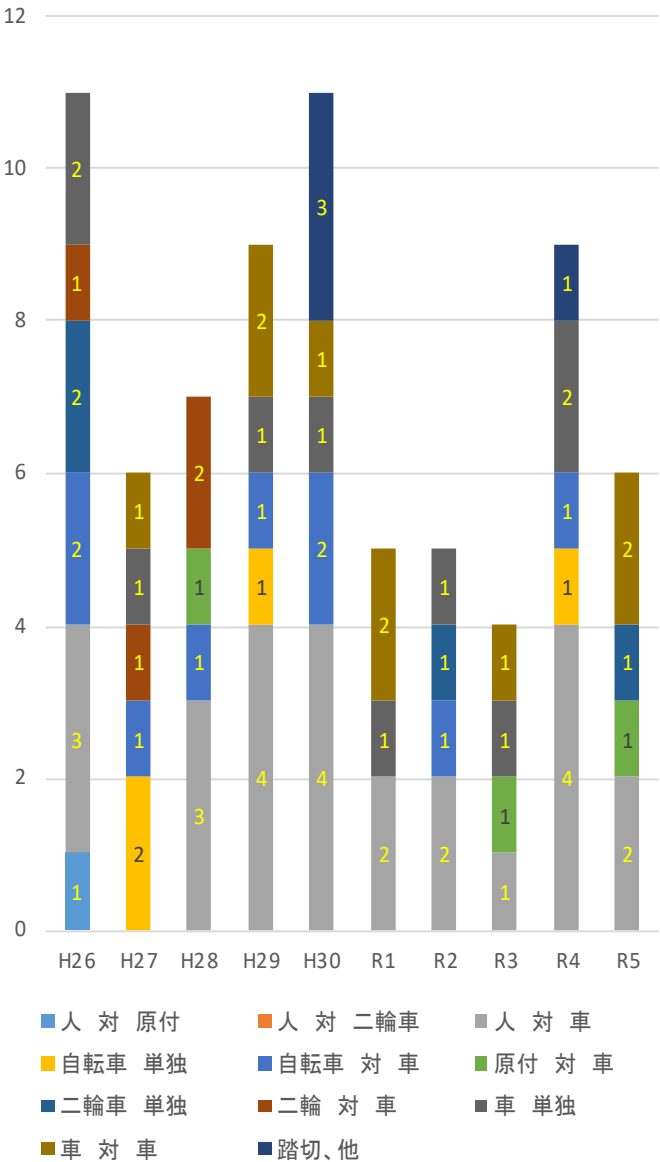
地区名	件数	死者数	重傷者数	軽傷者数	合計	地区名	件数	死者数	重傷者数	軽傷者数	合計
国府	13	0	1	15	16	若松	3	0	1	2	3
庄野	19	0	5	20	25	神戸	10	0	1	10	11
加佐登	12	0	2	13	15	栄	7	0	1	6	7
牧田	28	0	5	27	32	天名	4	1	6	0	7
石薬師	11	0	1	12	13	合川	2	0	0	2	2
白子	30	1	4	30	35	井田川	7	0	1	12	13
稲生	12	0	1	16	17	久間田	6	0	0	10	10
飯野	43	0	13	45	58	椿	2	0	0	2	2
河曲	10	1	3	8	12	深伊沢	2	0	0	2	2
一ノ宮	11	0	3	10	13	鈴峰	5	0	0	5	5
箕田	5	0	3	2	5	庄内	4	0	1	4	5
玉垣	50	3	8	54	65	合計	296	6	60	307	373

鈴鹿市内の交通事故状況

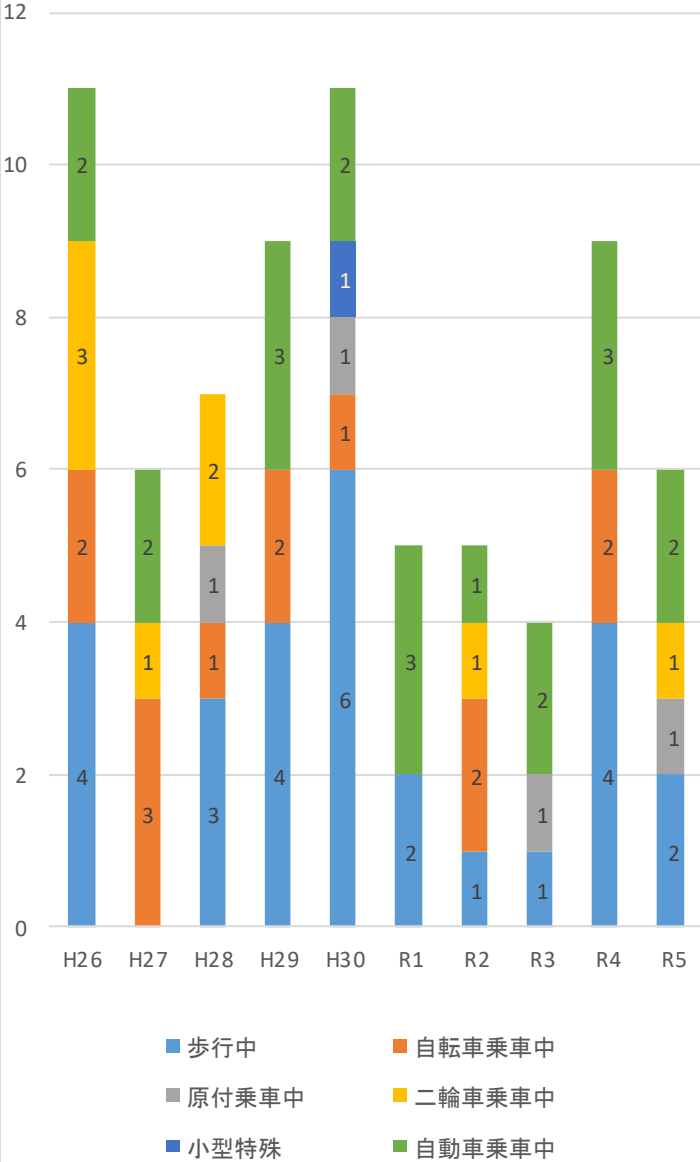
(過去 10 年間)

	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和1	令和2	令和3	令和4	令和5	平均
交通事故件数	6,410	6,496	6,544	6,696	6,629	6,289	5,345	5,359	5,591	5,793	6,115
死者数	11	6	7	9	11	5	5	4	9	6	7.3
高齢者死者数	6	3	4	5	9	5	4	1	5	3	4.5
高齢者比率 %	54.5	50	57.1	55.6	81.8	100	80	25	55.6	50	61.0
人身事故件数	802	743	684	613	586	417	287	236	278	296	494.2
高齢者人身事故件数	196	200	166	149	164	129	73	63	66	93	129.9
高齢者比率 %	24.4	26.9	24.3	24.3	28	30.9	25.4	26.7	23.7	31.4	26.6
重傷事故件数	107	92	77	79	82	77	47	43	45	54	70.3

過去10年間 死亡事故車両別内訳



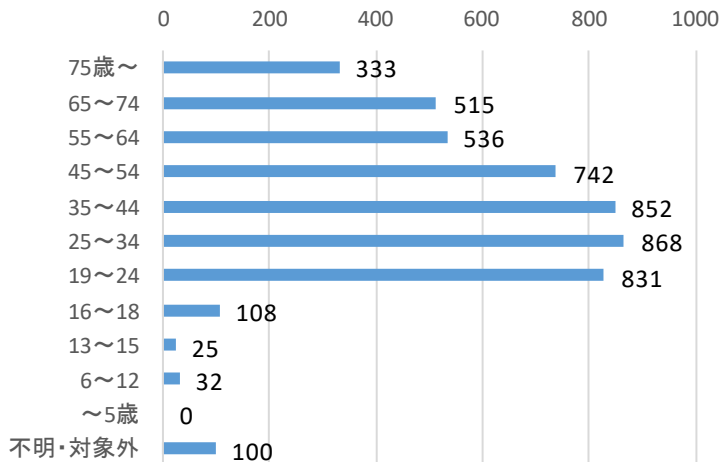
過去10年間 死亡事故の状況別内訳



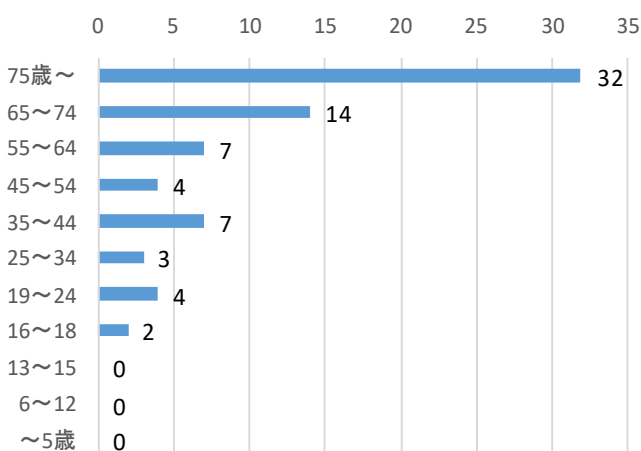
交通事故者の年齢特徴（過去10年間）

第1当事者：最初に交通事故に関与した車両等の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者をいい、また過失が同程度の場合には人身損傷程度が軽い者をいいます。

過去10年間 人身事故者の年齢別内訳
(第1当事者)

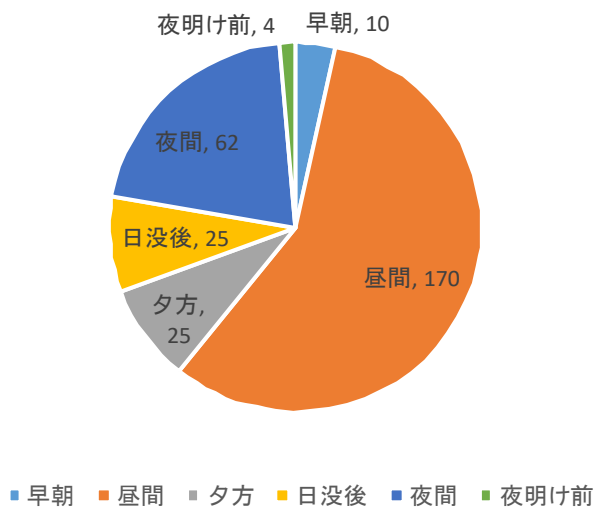


過去10年間 交通死亡事故者の年齢別内訳

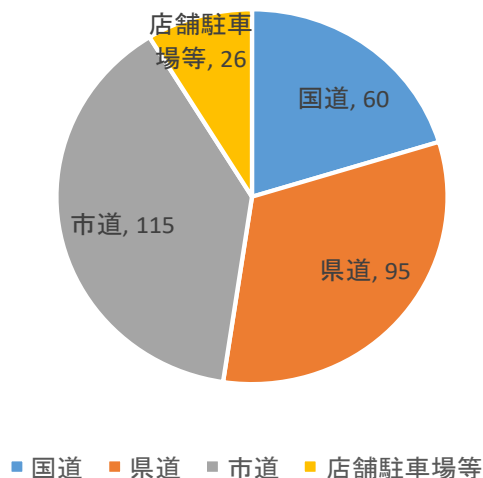


令和5年中に発生した事故の累計別内訳

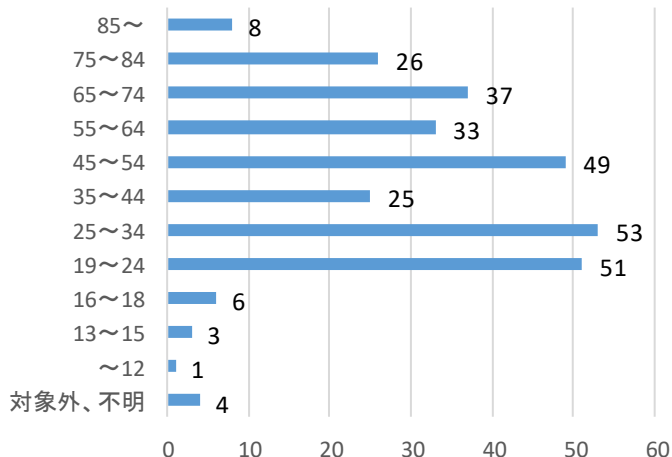
令和5年中 事故発生時間帯及び件数



令和5年中 事故発生場所及び件数



令和5年中 事故原因者年代内訳(第1当事者)



～交通事故の加害者にも・被害者にもならないために～

令和5年中に発生した人身事故の発生原因のうち、不確認及び不注意が起因する件数は全体296件中208件で70.3%を占めています。わき見、考え事、カーナビ操作、スマホを見ながら、などの「ながら運転」は重大な事故を引き起こす原因となります。車両を運転する時は運転に集中し、周りの状況を注視して運転してください。

歩行者もスマホを見ながら通行するなど、不注意な行動が見受けられます。周りの状況を注意しながら通行してください。また道路を横断する際は左右をよく確認して横断してください。

自転車を利用する際は、「自転車安全利用五則」の徹底が基本です。【自転車安全運転五則】

- 1 車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先
- 2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 3 夜間はライトを点灯
- 4 飲酒運転は禁止
- 5 ヘルメットを着用